

○ヤクシマムグラについて (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Galium kamschaticum* var. *yakusimense*

屋久島にはオオバノヨツバムグラに似て全体が著しく小型のものがある。1930年に正宗殿敬氏はヤクシマムグラと名づけ、*G. yakusimense* の名で新種として発表した。草丈は 5-6 cm, 葉は楕円形または長楕円形で先はややとがり, 長さ 5-10 mm, 幅 3-4 mm, 果実には鈎状の毛が密生する。全体として本州のオオバノヨツバムグラ *G. kamschaticum* var. *acutifolium* に似て, それを小型にした形である。屋久島のものは *G. kamschaticum* の変種程度の変異で, 別種とすることは無理と思う。

杉本順一氏は1957年, ナンゴクムグラの名で *G. kamschaticum* var. *minum* Sugimoto として新変種を屋久島から報告した。簡単な記載しかついていないが, エゾノヨツバムグラの変種で小型である点からすると, 正宗氏のヤクシマムグラと同じものと考えられる。杉本氏は正宗氏の記載から判断して別物と考えたらしく, 氏の日本草本植物総検索誌, 双子葉編 (改訂版, 1978) にはナンゴクムグラが果実に鈎刺を密生する群に, ヤクシマムグラは果実が短毛か平滑の群にそれぞれ載せられている。しかし正宗氏の記載にもあるとおり, ヤクシマムグラは長い鈎毛があって, エゾノヨツバムグラの果実と異なるものである。

ヤクシマムグラとナンゴクムグラは同一と考えるが, その学名をどうするかに問題がある。エゾノヨツバムグラの変種とするのが妥当と考えるから正規に報告されていれば杉本氏の var. *minum* を使うことになるが, 杉本氏の報告はごく簡単で, 標本の引用も基準標本の指定もなく, とても正規の発表とは認めにくい。正規の学名として使うには後に問題を残すことになる。最初にこれが特別な植物群であることを報告したのは正宗氏であるし, 正規の発表もされているので, 正宗氏の学名を組変えて使用するのが後に問題も残らないし, 正当な手順だと思う。

文献で御世話になった金井弘夫氏に感謝します。

*Galium kamschaticum* Steller var. *yakusimense* (Masam.) Yamazaki, comb. et stat. nov.

*Galium yakusimense* Masamune in J. Soc. Trop. Agr. 2: 37, 1930; in Mem. Fac. Sci. Agr. Taihoku Univ. 11, Bot. no. 4: 423, 1934.

*Galium kamschaticum* Steller var. *minum* Sugimoto in Shokubutsu-shumi 18: 8, 1956, nom. illeg.

Distr. Kyushu, Is. Yaku.

(東京大学 理学部付属植物園)